


J-PAC (Japan Program at Chiba) チューター募集要項

千葉大学では、毎年4月と10月に始まるJ-PAC (Japan Program at Chiba) という留学生の受入れプログラムを実施しています。協定大学を中心とする海外の大学の学部生(2~4年生)を11か月(または5か月)間千葉大学に受入れるプログラムです。

国際教養学部では、この10月からJ-PACに参加する留学生を80名余り受け入れることになっています。ついては、以下のとおり、こうした留学生の「チューター」*となってくれる学生を全学から募集しますので、ぜひ奮って申し込んでください。

* チューター制度およびプログラムの概要については2ページ目に説明があります。

1. 活動期間：2019年度後期(10月~2月)
2. 活動時間：50時間
3. 募集人数：80名程度(予定)
4. チューターの仕事(活動内容)：
 - 1) 留学生が日本の生活、千葉大学での勉強にスムーズに溶け込めるよう手助けをする。
 - 2) 同世代の友人となって相互理解を深めるとともに、互いに学び合う関係を作る。
 - 3) 相手の留学生の希望やニーズに対して自分は何ができるか考えてサポートをする。
5. 応募条件：2019年度後期に毎週2~3時間留学生と会う時間が取れる学生。
※アルバイトやインターンシップなどで時間的な制約が大きい方はご遠慮ください。また、後期に休学予定の学生は申し込めません。
※担当する留学生は国際教養学部にも所属します。
6. 謝金：チューターとしての義務を果たした学生には大学規定の謝金が支払われます。
7. 応募方法：7月8日(月)までに「[国際教養学部 2019年度後期チューター応募用フォーム](#)」のQRコード(右側貼り付け)からアクセスして申し込んでください。
【注意】応募フォームにアクセスするにはOffice365のアカウントが必要です。使ったことがない方は、統合情報センターの[ホームページ](#)右上にある『利用者番号調査』ボタンからアカウント調査ページ(学内専用)に進み、学生証番号などを入れた上で、自分のアカウントを確認してください。
8. 面接：国際教養学部1年生および他学部学生に対しては、選考のための面接を、
 - ・7月22日(月)、25日(木)の昼休み(場所は、国際教養学部棟G8 1階)
 - ・7月24日(水)の昼休み(場所は、国際教養学部棟G8 3階)に実施します。
9. 結果の通知：採否は8月初めにメールで連絡します。
10. 採用されたチューターに対するガイダンスを8月5日(月)と6日(火)の6時限目にそれぞれ実施します(場所は、国際教育センター1階大講義室)。よって、いずれかに出席してください。
11. 留学生との顔合わせ、活動開始は9月26日を予定しているので、極力用事を入れないようにしてください。その日にどうしても出席・参加できない場合は、別途調整します。

【チューターに応募する前に】

1. J-PAC とは (<https://cie.chiba-u.ac.jp/programs.html> 参照)

J-PAC (Japan Program at Chiba : 千葉大学短期交換留学プログラム) は、「国際教養プログラム」と「日本研究プログラム」の2つのカテゴリーがありますが、いずれも海外の大学で日本語を学習した経験があり、日本文化、日本語に興味を持っている学部生のためのプログラムです。ただし、学生の日本語能力は、上級の人からゼロに近い人まで様々です。

毎年 100 名近くの短期留学生を受入れています。参加者のほとんどが協定大学からの交換留学生です。10 月に受入れる学生は、翌年 2 月または 8 月 (2020 年度は 7 月) まで西千葉キャンパスの各学部にも所属して、語学としての日本語、普遍教育科目、学部専門科目などを受講します。2019 年 10 月は、世界 13 か国以上の大学から学生を受入れることになっています。これらの学生の学習上の指導は、プログラムのコーディネーターを務める教員と留学生の指導教員が協力して行っています。

2. チューター制度とは

チューター制度は、千葉大学が行っている留学生支援事業の一つで、留学生を生活、勉強の両面で支援するために、受入れ大学である千葉大学の学生の中から適当な学生をチューターとして留学生に紹介するものです。チューターの役割は、留学生の身分、留学の目的、日本語能力などによって異なりますが、J-PAC 生の場合、1 ページ目の「活動内容」に記したようなことが期待されます。

チューターは謝金を受け取る仕事です。また、ほとんどの J-PAC 生にとって、チューターが 1 対 1 でつき合う最初の千葉大学生になるため、チューターに対する期待は大きいものがあります。チューターになった学生には、「何か質問されたら答える」といった受け身の態度ではなく、自ら状況を判断して行動することが望まれます。自らの役割を果たすためには、お互いに信頼し合える対等な友人関係を育てていくことが肝要です。

チューターを務めることは、チューター自身にとっても、自分とは異なるものの見方を学んだり、日本について改めて考えたりするきっかけとなります。自分自身のコミュニケーション能力を向上させるよい機会でもあります。

3. チューターとしての義務

留学生の所属する学部事務に指導計画書や月間活動報告などを提出したり、必要に応じて開催されるミーティングに参加したりしなければなりません。こうしたことも十分理解したうえで申し込んでください。

4. FAQ

Q：チューターはどんなことをすればいいのですか。

A：初期段階では、大学での勉強がスムーズに始められるよう履修する科目の教室や教科書の買い方を教えたり、身の回りの品を揃えるのを手伝ったりしてください。留学生と話し合っ（または、留学生と会話する中で）何ができるかを考えることも大切です。昼食を取りながら日本語の会話をする、授業の予習・復習を手伝う、学内の行事と一緒に参加するなど、いろいろ考えられます。詳しいことはチューターに対するガイダンスでも説明します。

Q：チューターをする曜日・時間は決まっていますか。

A：決まっていません。二人で相談して決めることができます。

Q：英語ができなくてもチューターになれますか。

A：留学生はほぼ全員が日本語を学習しています。相手の日本語のレベルに合わせて日本語を使ってもらえれば大丈夫です。また、応募の際に、皆さんの英語力について伺いますので、どうしても英語でのサポートが必要と思われる留学生には、相応の英語力がある方にチューターをお願いします。

Q：自分が対応できない質問を受けたようなときはどうすればいいですか。

A：留学生の生活面でのサポートは、留学生課内にある[インターナショナル・サポートデスク](#)でも行っています。日本語に関する質問は、[日本語支援室](#)のチューターに相談することもできます。

問い合わせ

国際教養学部グローバル教育委員会

交流支援ワーキンググループ長 見城悌治 kenjo@faculty.chiba-u.jp

国際教養学部学務係 las-gakumu@chiba-u.jp

J-PAC コーディネーター 吉野文 ayoshino@faculty.chiba-u.jp